

大規模土砂災害を想定した危機管理演習を実施

～過去の災害を教訓として、より迅速な災害対応を目指して～

今年度^{※1}の出水期に備え関係機関合同の危機管理演習を、7月3日(火)に真室川町イベントハウス遊楽館において実施します。

演習は鮭川流域(真室川町、金山町、鮭川村)において大規模土砂災害(河道閉塞等)が発生したことを想定し、学習型訓練^{※1}により実施します。

平成29年7月の九州北部での土砂災害や平成28年8月の台風10号による岩泉町での土砂災害にみられるように近年、局地的な豪雨がもたらす土砂災害が頻発しています。

また、平成24年4月には当事務所管内大蔵村肘折地区において地すべり性崩壊による土砂災害が発生しました。(平成28年11月対策工完了)

このような状況を踏まえ、本演習では真室川町において气象台、山形県、真室川町、金山町、鮭川村、警察、消防、JR東日本、山形県建設業協会、東北地方整備局等、関係15機関が合同で学習型の「鮭川流域大規模土砂災害危機管理演習」を実施します。学習型の訓練では、参加者全員が災害対応行動を確認するとともに、関係機関が一堂に会することにより「顔の見える関係」を構築し、迅速な災害対応が出来るよう実施するものです。

記

1. 演習日時 平成30年7月3日(火)午前10時～午後3時
2. 演習会場 真室川町 イベントハウス 遊楽館 (山形県最上郡真室川町新町273-2)
3. 参加機関 山形地方气象台、山形県、山形県警察本部、真室川町、金山町、鮭川村、最上広域市町村圏消防本部、JR東日本、山形県建設業協会最上支部、防災エキスパート事務局、最上川・赤川水系砂防ボランティア協会、東北地方整備局、新庄河川事務所
4. 参加者 約100人
5. 訓練項目 ○学習型訓練 : ①地震発生後の土砂災害防止法に基づく対応
河道閉塞・地すべり・がけ崩れへの対応
②初降雨に伴う防災体制の構築
※1「学習型訓練」については、【別紙-1】をご参照下さい。
6. その他 一般の方で傍聴を希望される場合は、事前に新庄河川事務所までご連絡下さい。
＜発表記者先: 山形県政記者クラブ、酒田記者クラブ、鶴岡記者会、新庄新聞放送記者会＞

【問い合わせ先】

＜国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所＞ TEL:0233-22-0262(直通)

副所長(砂防) 齋藤 克浩(内線205) / 調査課長 村岡 章(内線351)

＜山形県真室川町 総務課＞TEL:0233-62-2111(代表)

危機管理担当 新田 寿昭(内線218)

＜山形県金山町 町民税務課＞TEL:0233-52-2111(代表)

くらし安全係長 後藤 隆行(内線241)

＜山形県鮭川村 住民税務課＞TEL:0233-75-2111(代表)

課長 野尻 博(内線110)

■ スケジュール

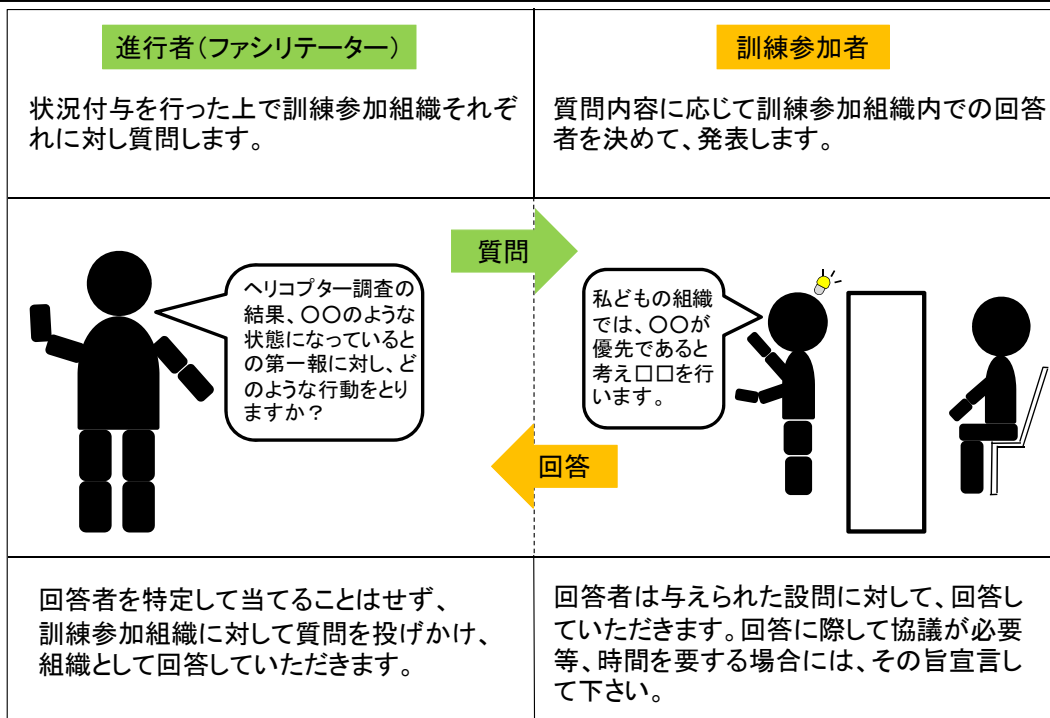
【別紙－1】

10:00～10:05	開会・挨拶
10:05～10:15	訓練の進め方の確認
10:15～12:00	学習型訓練 ステージ1:地震発生後の土砂災害防止法に基づく対応 ■河道閉塞・地すべりへの対応
12:00～13:00	休憩
13:00～14:30	ステージ2:■がけ崩れへの対応 ステージ3:降雨に伴う警戒体制の構築
14:30～15:00	反省会、全体講評、閉会・挨拶

訓練ではみちのく号による広域へり調査を実施予定。なお、当日の天候により中止なる場合があります。

■ 訓練方法（※1学習型訓練）

「進行者」と「訓練参加者」にわかれ、想定した災害シナリオに則して状況付与を行った上で、「進行者」は「訓練参加機関」に、その対応について様々な「質問」をし、「訓練参加機関」は「回答」する形式で進行します。



訓練実施事例(大蔵村 平成 29 年 6 月)
銅山川流域「大規模土砂災害危機管理演習」

■近年における銅山川流域（肘折地区）での土砂災害発生状況

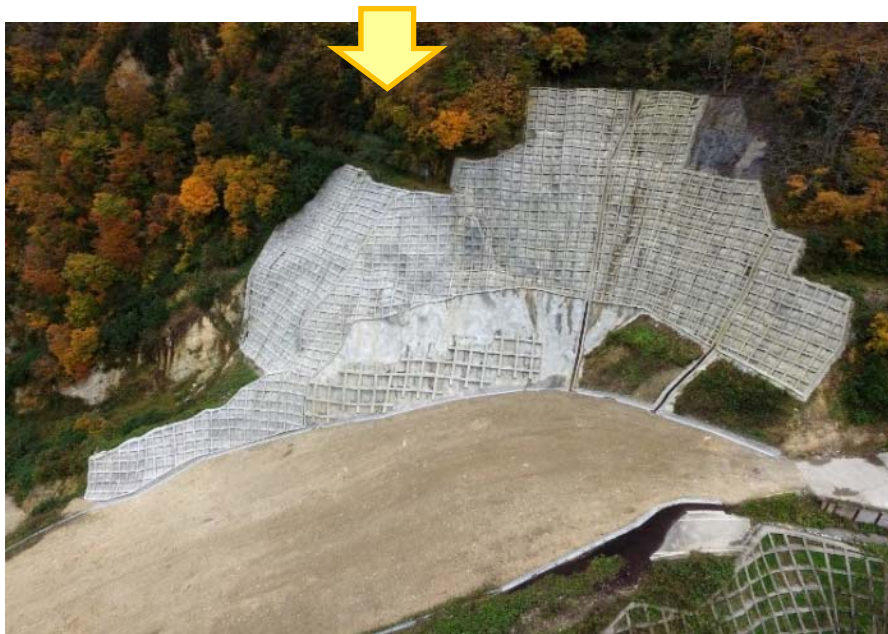
平成 24 年 4 月の融雪期に地すべり性の斜面崩壊が発生。約 1 3 万 m³ の土砂が崩落し、崩落した土砂により一時河道閉塞が形成された。

上流の肘折温泉街への被害の恐れが高いことから、発災直後から緊急監視対応等を行い、その後、平成 25 年度から再崩落を防止するため、護岸工、法面工等対策を実施。平成 28 年 10 月末に一連の全ての工事が完了した。



肘折温泉
いでゆ館

平成 24 年 4 月 10 日に肘折地区で発生した地すべり性崩壊による土砂災害状況



平成 28 年 10 月護岸工、法面工等対策工完了状況